

秋の彼岸によせて

令和四年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

航海の発展に伴い、世界に多くの高度な異文化が存在していることを知った人々は、それらを求め、長い年月のなかで國境、人種、宗教を超え、人として親密な心の交流を続け、信頼を築いてきました。しかし、これらの一人一人の地道で弛まぬ努力も、一人のリーダーによって國交を分断し、破壊し、殺傷し、一夜にして虚しく崩れ去り、絶望の様相を呈しています。

人間が権力を手にしてしまうと獨裁者となることを、歴史は語っています。

では、獨裁者とならないためには、どうすれば良いのでしょうか。

皆さまのお家で、朝夕にお佛壇のご先祖さまに手を合わせ、語りかけ、日々の無事を感じ、あるごとにお陰さま、お陰さまと、自然と零れ出てくるご先祖さまへの感謝。

この姿が、祖父母、ご両親と脈々と引き継がれ今日に至っているのです。

これは、特別なことではなく、日常に表れていてこそ、意味のあることではないでしょうか。

お釋迦さまは、人類、皆菩提心を起こすことが大切と説かれています。

菩薩さまの心を身につけることなのですが、人間が菩薩さまの心を持つことは容易いことではありません。

感謝の心を持つことなら、皆さまは既にできています。お陰さま、お陰さまは、「ご先祖さまのお陰さま」という意味です。

靈界に戻られ、陰のお役目につかれ、日々、子孫である我々を見守るお役目につかれたということです。

感謝の心にも浅い、深いによりその姿は大きく変わります。

日常生活で感謝の気持ちが表れ易いのは、物を貰ったり、願いごとを叶えて貰ったりしたときでしょう。

しかし、期待に反した結果であれば、怒り、恨み、妬みに変わる

という・・・人間の心というものは不思議な動きをします。

このような動きは何故起こるのでしょう。

人間の貪欲な心が見え隠れしているということなのです。

「感謝」は、誰のためのものなのでしょう。

人の爲、出世の爲、自分が傷つかない爲、自己満足の爲？

眞の感謝を発信しているかたの周りは皆、笑顔と満足と安穩あんのんに満ち溢れています。

地藏菩薩じぞうぼさつさま、觀音菩薩かんのんぼさつさま、阿彌陀あみだ如來にょらいさまは、慈愛じあいと感謝に満ち溢れておられます。これらのことを身につけることができれば、安穩あんのんは自ら訪れるものです。お陰おんさま、お陰おんさまが自然と零こぼれる日々に、ご先祖さまへの眞の感謝が籠こもっているのです。

獨裁者は、國のリーダーだけではありません。會社や小さなグループ、家庭に至るまで、安穩あんのんがないところには獨裁者がいるかもしれません。

お互い、皆さまが深い感謝の心を持つこと、お陰おんさまが口から消えないようにするために、ご先祖さまに、ご両親に感謝を忘れず、毎日お佛壇ぶつだんに頭こぶを垂たれる謙虚な心を皆さまが持てるように、祖父母、ご両親を見習い、日々、ご先祖さまに心を養うお經を頂くことです。

次に、以前にもお伝え致しましたが、墓參ぼさんのお花には意味があることを改めてお伝えしたく思います。

墓參ぼさんの花は柁しきみがより相應ふさわしいとお伝えさせて頂きましたが、あれから時間が経ち、有り難いことに若いかたや亡きかたの友人、知人の參拜も増えてまいりました。

それに伴い、生花をお持ちのかたも増えてまいりました。美しい花を捧げたいというお氣持ちは大變よく解りますが、そのお花は、家のお佛壇にお飾り頂くことをお願い申し上げます。

我が國では數十年前まで、ご遺體をお棺ひつぎに納め、そのまま土に埋めた土葬の時代に、鳥や野犬、蟲からお骨を守るために柁しきみを用いてきました。

今もお墓には、尊いご先祖さまのお骨が納められています。そのお骨を清らかに守るために柁しきみの効果は大きいのです。

生花は最初は奇麗でも、ときが経てば黒くなり、墓石を汚し、水を腐らし、悪臭を放ちます。しかし櫛しきみは、水を腐らすこともなく、枯れても墓石を一切汚しません。

ご先祖さまのお骨を清らかにお守りすることも大切な心得です。是非、子から孫、孫からひ孫に櫛しきみの意味の深さと先人の知恵をお伝え頂き、友人、知人にもお伝え頂ければ、お喜び頂けると思っております。

まだまだコロナの勢いは衰える兆しもない昨今ですが、感染対策を充分にして頂き、ご先祖さまのお住まいであり、お體である墓石、墓地を清らかにして頂き、魔除け、蟲除けの櫛しきみでしっかりお骨をお守り頂きますように、重ねてお願い申し上げます。

合掌